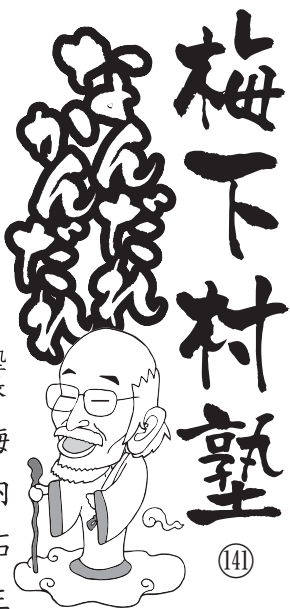


# 「森と水と命の惑星」国際会議

## ～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(141)

(備えあれば憂いなし  
されど消えず)

国家レベルの誹謗中傷宣伝活動と告げ口外交はこれからお互いに納得して世界を生きていくためには百害あって一利なしである。アラブの春の嵐が吹いた中東、ソチオリンピックを行ったロシアの隣国のウクライナ、中国、韓国、北朝鮮、日本など、東アジア情勢、世界は深刻な政治状況を呈している。

東アジアのPM2.5による環境汚染は深刻になっている。共産党独裁の中国はこの問題と自国の経済の先行きの不安から、過去に解決されている政治問題を絡ませて、政権と経済の維持を狙って、日本に無理難題を突き付けている。超大国の力に陰りが見えてきている米国もこの東アジアの政治的憂いから目

をそろそろとしている。

2月23日の「世迷言」は韓国が持ち出してきた第2次大戦中の日本軍による慰安婦問題は国際法上論拠のないものであり、1993年の河野洋平官房長官の元慰安婦に対する韓国へのお詫びの談話も根拠のないものであることに日本のマスコミも気が付き始めていると報じている。

民主主義はギリシャのポリス国家から始まっている。民衆の言動は大衆扇動に乗ると大きな力となる。ソクラテスの政治的な死は命をかけて民主主義の魂を守ったことである。(備えあれば憂いなし  
されど消えず)、このような世界状況の中で、日本の政治家やマスコミは、何に命をかけているのか態度で表さなければならぬ。

世迷言の慰安婦問題の発端は朝日新聞の誤報にあるが、それが独り歩きするように至る原因を招いた人物の国会召還は当然であろうという記事にうなずけるものがある。

### (希望と未来)

江戸末期に土佐藩士の子として土佐高知地に生まれた明治時代の思想家、政治家、自由民権運動の理論的指導者であった植木枝盛の詠作「希望と未来」への返歌

未来がその胸の中にある者、これを青年という

### (植木枝盛)

明治期に新渡戸稲造、内村鑑三など政治、芸術、宗教などの領域で活動した人々は、北海道大学の前身である札幌農学校で米国人教師であるクラーク博士から「少年よ大志を抱け」という言葉をいただき、これに感激してその後の人生を開拓した。植木枝盛のことば、未来がその胸の中にある者、これを青年という、はまさに少年よ大志を抱けと響き合っている。

希望の灯(ひ) 未来を展(ひら)く 胸の中 (拓生)

未来への 希望を風に 登下校 (一中生徒)

子どもらの 希望と夢 詠み 返し歌 (短歌会)

被災地は 希望と失望 入り校じり (圭一)

被災地に 必要なのが 希望の灯(ひ) (圭一)

東日本大震災からの復興を目指している気仙地方の「ことば」にも「希望」と「未来」への思いが込められています。

(東海新報記事から) 120年ぶり、40年ぶりの大雪や大寒波など異常気象のニュースは地球を駆け巡っている。「英国人記者が見た連合国戦勝史観の虚妄 ヘンリー・S・ストークス著「祥伝社新書」、「韓国人は何処から来たか 長浜浩明著「展転社」と世迷言の世界の歴史の見かたが心に響いてきた。